

VI 海外大学・機関との交流
(年次報告(平成25年度後期・26年度前期))

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松田, 紀子, ライアン, 優子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00008127

VI 海外大学・機関との交流

松田 紀子／ライアン 優子

1. 大学間・部局間交流協定

当該期間に、次の2件の大学間協定、および5件の部局間協定が新たに締結された。

▶ バンドン工科大学 (H. 25. 10)

▶ ペラデニア大学 (H. 25. 12)

▶ バンドン工科大学生命科学工学研究科 (H. 25. 10, 農学部・農学研究科)

▶ モンゴル国立教育大学 (H. 25. 12, 教育学部・教育学研究科)

▶ アルカラ大学 シスネロス・カレッジ (H. 26. 1, 人文社会科学部・人文社会科学研究科)

▶ モルドバ科学アカデミー (H. 26. 1, 電子工学研究所)

▶ マチュン大学光合成色素研究センター (H. 26. 8, 理学部・理学研究科)

2. 研究者交流

1) 海外協定校等教員招聘プログラム

平成26年度に、国際交流センターおよびグローバル改革推進機構において、授業の英語化を促進するために、海外協定校等から教員を招聘して、①研究打合せに加えて、②学部や修士課程で英語での講義やセミナー、③授業を英語化するための在籍大学での取り組みの紹介、などを行う外国人研究者招聘旅費の補助プログラムを実施した。

【募集概要】

▶ 対象研究分野：全分野

▶ 申請資格：静岡大学の常勤の教員

▶ 招聘教員の要件：優れた研究業績を有する外国人数員（原則として海外の学術研究機関の常勤研究者）で、我が国と国交がある国の国籍を有する者。

▶ 招聘期間：3ヶ月以内

▶ 補助額：上限150万円／人（50万円／月）

本プログラムを利用して平成26年度を通じて全学の部局へ52名の海外教員が招聘され、海外との共同研究活動の機会促進となった。また、多くの英語による講義、セミナーが他学科にも開かれた形式で行われ、大学の教育・研究活動英語化の取り組みにも貢献することとなった。これまで、海外への教員派遣プログラムの実施実績は全学で個別に取り組まれているが、静岡大学の研究、教育の国際化体制整備を目的とした全学的な規模の取組のひとつとして、貴重な実績となった。

2) 国際交流センターへの研究者受入れ

平成26年1月－2月に、静岡県海外技術研修員（中国研修生）1名を、本学外国人研究者として国際交流センターで受入れた。この静岡県外技術研修員制度は、9月に来静後、1か

月半の日本語研修を経て、10月半ばから2月末まで2機関で専門研修を受けるプログラムであり、平成26年度は、当センターで2年目の受入実施であった。当該研究者の関心事項を考慮して、人文社会科学部経済学科の協力を得た結果、経済学科の居室が提供されたほか、センター運営の日本語教育プログラムやスキー研修旅行に参加、浜松キャンパス視察も行った。

3. 海外同窓会活動

国際交流センターでは、人的ネットワーク強化のために、海外同窓会活動の活性化に努めている。静岡大学の既卒業留学生の同窓会組織の立ち上げを平成24年7月にインドネシアで行ったのに続き、平成26年3月にタイ、バンコク市内においても実施した。同会には、プーケットやチェンマイなどタイ全国からタイ人の元留学生約40名がかけつけ、静大卒業生を含む静岡県内企業のタイ拠点駐在員の方々、日本学生支援機構（JASSO）、日本学術振興会（JSPS）、静岡県庁の方、協定大学と静岡大学の教職員も加わり、総勢79名の盛大な集まりとなった。初代会長にタイ人、副会長に日本人の同窓生を任命し、今後のタイにおける同窓会の日タイ共同の活動体制を整えた。

上記の活動により、平成26年前期までに活動をしている海外同窓会支部は、下記の二つとなった。

- インドネシア支部（2012年7月設立）

現地代表：Dr. Siti Subandiyah（ガジャマダ大学 教授）

- タイ支部（2014年3月設立）

支部会長：Dr. Pongphen Jitareerat（キングモンクット工科大学トンブリ（KMUTT）講師）

国際交流活動において、産学連携を重視しているため、静岡大学海外同窓会の各支部は、元留学生のみならず、静岡の企業、自治体、静岡大学、協定校間のネットワークの基盤として活動していく予定である。将来的にはベトナム、インド等さらに多くの国に展開し、卒業留学生間、卒業留学生と静大、さらに静岡県内企業等との密な連絡網を構築することを目指す。

4. 海外拠点整備

1) タイ海外事務所（平成21年11月開設）

平成26年3月および8月にタマサート大学東アジア研究所の事務所を訪問し、静岡大学の最近のタイにおける活動について情報共有および、支援の要請を行った。平成26年9月には、グローバル改革推進機構とともに進めているアジアブリッジプログラムの海外拠点整備事業に関連し、タマサート大学の東アジア研究所の会議室にSkype TVを設置し、タマサート大学およびタイにおける活動を活発化させるためのインフラ整備を進めた。また、同事務所において、非常勤スタッフの勤務について協議を進めている。

2) インドネシア海外事務所（平成22年2月開設）

本学はインドネシアの大学・企業との関係を強化すべく、平成25年1月より、ガジャマダ大学内の本学事務所に、現地相談員を配置して、本学教職員の現地訪問時や、毎年農学部がガジャマダ大学と協力し「海外フィールドワーク」科目として1週間の現地実習を行う際に、現地のコーディネート等を担っている。また、平成26年度前期には、新たに教育学部がガジャマダ大学のコミュニティーサービス研修に学生を参加させるプログラムを試行し、平成26年8月に教育学部学生4名が参加した。

平成26年10月には、グローバル改革推進機構とともに進めているアジアブリッジプログラムの海外拠点整備事業に関連し、当事務所にSkype用スクリーンを設置し、インドネシアにおける活動を活発化させるためのインフラ整備を進めた。

3) ベトナム海外事務所

平成25年度に閉所した本学ベトナム事務所（フエ）に代わる新たな事務所を開設すべく、ハノイ周辺の交流協定校の協力を得て検討を進めている。

5. インターアカデミア・アジア 準備会議

平成26年2月17日に静岡市内において、インターアカデミア・アジアの設立準備会を開催した。インターアカデミア・アジアは、アジア地域、主に東南・南アジア地域の協定大学と連携し、アジアを中心とする海外で活躍するグローバル人材育成のための、新たな教育プログラムの実施に向けた協力体制の構築や、研究分野等における交流促進を主な目的としている。

インターアカデミア・アジアの設立準備会には、インドネシア、タイなど6か国、12の協定校などから関係者15名が出席、設置目的などについて賛同が得られ、アジアの新たなコミュニティが実現することとなった。会議には、静岡大学から永津創造科学技術大学院院長、朴グリーン科学技術研究所長等も出席し、DDP（ダブルディグリープログラム）について意見交換が行われたほか、会議後の懇談会では石井理事（教育・附属学校園担当）が挨拶、今後の更なる関係強化への期待が表明され、その後、活発な情報交換が行われた。翌日には、静岡・浜松の各キャンパスにおいて、研究者交流等が行われた。

6. インターアカデミア2014（ラトビア、リガ工科大学）

本学が中東欧の協定校と毎年開催している国際会議インターアカデミア（IA）が、2014年9月9日から12日までの4日間にわたり、ラトビア共和国のリガ工科大学において開催された。本会議には、在ラトビア日本国大使館のご後援をいただき、同国内の広報における支援のほか、オープニングセレモニーでは多賀敏行大使のご臨席を賜った。2002年以来、13回目を数える2014年の会議は、本学から木村雅和副学長（社会・産学連携担当）、永津雅章創造科学技術大学院院長、三村秀典電子工学研究所長ら教職員及び大学院学生、企業関係者、名誉教授等、35名が参加し、さらに中東欧の各協定大学からの参加者を合わせ、総勢160名を越える多数の参加となった。会議では、幅広い学術分野における最新の研究紹介や若手研究者による研究発表や意見交換が活発に行われた。国際交流センターとしては、

期間中に各校を代表する研究者との交流、及び協定の協議、今後の連携体制の検討等を進めるミーティングを行った。期間中に行われたExecutive Committee会議において、次回（2015年）開催は、2007年の第6回以来、8年ぶりに静岡大学が担当校を務めることとなった。

7. 日本学生支援機構「海外留学支援制度」

本事業は、学生の超短期での海外派遣・受入れを推進することを目的として平成23年7月より開始された奨学金事業「留学生交流支援制度（ショートステイ・ショートビジット）」（3か月未満）を一部取り込んで、平成25年度には「留学生交流支援事業（短期受入れ・短期派遣）」（短期研修・研究型：8日以上1年以内、交流協定留学型：3か月以上1年以内）、さらに平成26年度には「海外留学支援制度（短期派遣・短期受入れ）」（双方向協定型：1セメスター以上の交換留学、短期研修・研究型：8日以上1年以内）として実施されているものである。高等教育機関には、交流校との間で短期の学生の派遣・受入れの教育プログラム（単位付与を伴う）を構築することが期待され、このプログラムに参加する学生に一定の奨学金が支給される。

本学では、平成25年度には5件が採択され（申請9件）延べ65名の学生（うち岐阜大学8名）が、平成26年度には6件（辞退1件含む）が採択され（申請9件）延べ58名が参加した。

8. 博士課程ダブルディグリー特別プログラム（複数学位制度、DDP）

当該期間（平成25年10月～平成26年9月）にあらたに、リガ工科大学（ラトビア）との同協定が締結され、本学では計10大学との博士課程ダブルディグリー特別プログラムが展開している（アジア4校、ヨーロッパ6校）。

9. 海外教育機関との往来訪

来 訪

2013年後期

10月7日	バンドン工科大学 学長・副学長来訪、学長表敬訪問（インドネシア）
10月20日	モンゴル教育大学 学部長一行、学長表敬訪問（モンゴル）
10月30日	ポーランド駐日大使 創造大学院・留学生訪問（ポーランド）
11月13日	アルバータ大学 VSCP 担当者、VSCP 説明会（カナダ）
12月5日	インドネシア教育大学 学部長・教員、学長表敬訪問（インドネシア）
1月6日 ～2月26日	中国商務部職員研究滞在：国際交流センター受入れ（中国）
1月30日	ブラウンシュバイク工科大学 教員一行、研究に関する打ち合わせ（ドイツ）

2月17日 ～18日	インターアカデミア・アジア準備会合：12協定校より教員15名（バングラデシュ、インド、インドネシア、スリランカ、タイ、ベトナム）
---------------	--

2014年前期

4月17日	タマサート大学 工学部長他教員3名、視察・交流に関する協議（タイ）
5月14日	新華学院（中国）視察団王副院長・関係校の校長等15名 視察（中国）
5月27日	シーナカリンウィロット大学教育学研究科教員5名・学生13名、教育学部附属学校視察（タイ）
6月11日	サザンプトン大学マレーシアキャンパスCEO他教員1名、創造科学技術大学院・工学研究科視察（マレーシア、イギリス）
6月17日	モンゴル文化教育大学 理事長、学長表敬訪問（モンゴル）
6月18日	アルバータ大学 教員、交流プログラムに関する打ち合わせ（カナダ）
6月19日	ネブラスカ大学 教員、交流プログラムに関する打ち合わせ（アメリカ）
6月25日	タイ教養教育ネットワーク TGEN（Thailand General Education Network）13大学合同訪問団副学長・教員26名、教育活動の視察（タイ）
6月27日	カンザス大学25名（学生23名、教員2名）KAKEHASHIプロジェクト、大学訪問・学生交流活動（アメリカ）
7月15日	ハノイ国家大学外語大学 東洋言語文化学部長・教員1名、協定に関する打ち合わせ（ベトナム）
7月24日 ～31日	さくらサイエンスプラン招聘：Binus International School 11名（高校生10名、教員1名）、静岡大学見学（インドネシア）
7月28日 ～29日	駐日バングラデシュ大使館 経済公使、バングラデシュ留学生との交流（バングラデシュ）

往 訪

2013年後期

12月12日	第2回日本・インドネシア学長会議（インドネシア）
2月中旬	春季短期語学研修（中国、イギリス）
3月6日 ～11日	海外同窓会タイ支部立ち上げ、協定校（カセサート大学、タマサート大学、KMUTT、シリナカリンウィロット大学）、静岡県企業の訪問（タイ）
3月20日 ～26日	協定校：アンナ大学、SRM大学訪問（インド）
3月21日 ～26日	NIFEE現地入試視察（インドネシア、タイ、ベトナム）

2014年前期

6月1日	中国科学院新疆生態地理研究所、協定更新（中国）
7月31日 ～8月8日	日本教育フェア・日本留学フェア（インド）
8月19日 ～21日	協定大学（カセサート大学、タマサート大学、KMUTT、シリナカリンウィロット大学）、高校（カセサート大学附属高校、Prince Chulabhorn's College, Pathmtani、シリナカリンウィロット大学附属高校）等訪問（タイ）
8月27日 ～28日	日本留学セミナー参加（インドネシア）
8月29日 ～9月1日	日本留学フェア参加（タイ）
9月9日 ～12日	インターアカデミア2014（ラトビア）
9月12日 ～13日	マサリク大学 交換留学プログラムに関する打ち合わせ（チェコ）